



議会だより

松崎

No.117

平成29年10月26日



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

《主な内容》

第3回定例会（9月5日～9月7日）

- 平成28年度決算審議…………… 2
- 平成29年度補正予算他…………… 6
- 町政を問う 一般質問に4議員…………… 8

「石部湖田 収穫祭」



平成29年9月定例会

平成29年第3回定例会が9月5日から3日間にわたり開催されました。

定例会では、平成28年度の一般会計および特別会計決算など15件の議案を審議いたしました。

平成28年度 一般会計 決算審議

歳入総額は41億5,985万7千円、歳出総額39億8,126万8千円、翌年度への繰越額3,352万2千円で、実質収支額は1億4,506万7千円の黒字決算となった。

歳入

問 町税の収入未済額が減少傾向にあるとのことだが、どういう理由か。

答 窓口税務課長 平成28年度から下田財務事務所と賀茂地区の市町により賀茂地方税債権回収協議会を立ち上げた。協議会では滞納を共同徴収する特別チームを編成して取り組んでおり、その結果、収納率が上がっている。

問 共同徴収によってどのような取り組みがなされているのか。

答 窓口税務課長 協議会では滞納整理専門に行っているのですが、これまで町の職員だけでは実績が少

なかつた預金や生命保険などの財産調査に力を入れ、その結果、差押えも積極的に行われている。

問 ふるさと応援寄付金として2750万円余りが収入されているが、隣接する西伊豆町とはかなりの差がでている。原因はどこにあると思うか。

答 町長 西伊豆町と比べ水産加工品を製造している業者の数が少ないということと、商売に対する熱心さも西伊豆町の方が強いように思う。また、西伊豆町は役場職員と業者がうまく連携できているように感じる。

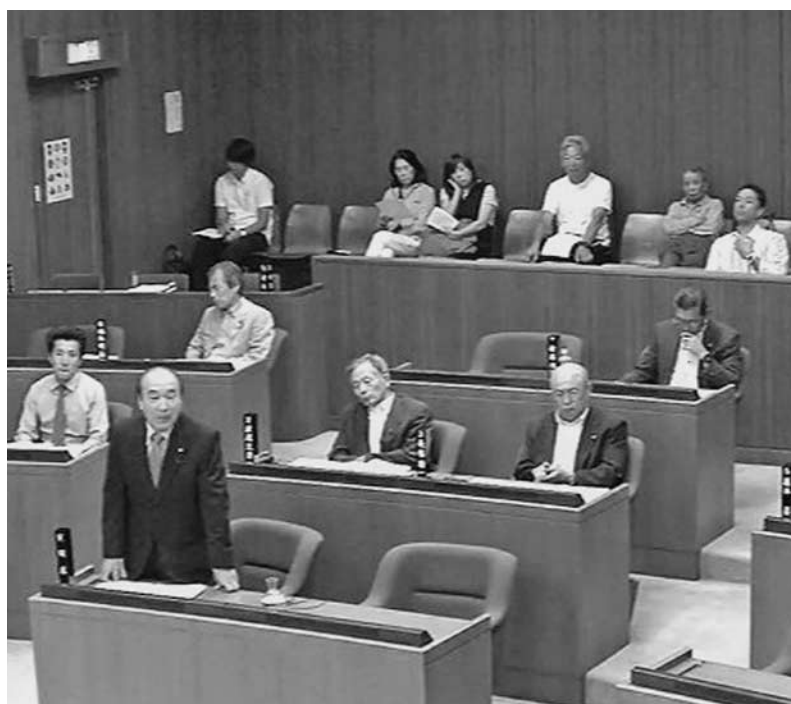
答 企画観光課長 松崎町では昨年より430万円ほど増えているが、西伊豆町では11億円を超える寄附があった。西伊豆町では返礼品の6割以上を水産加工品が占めているが、松崎町ではこの水産加工品が非常に弱い。もう一度、職員によるプロジェクトチームを組ん

で返礼品の掘り起こしに取り組みたい。

問 使用料の中で、中瀬邸、長八美術館、重文岩科学校の入館料は毎年下がってきている。いろいろな要因はあると思うが、抜本的対策は何か考えているのか。

答 企画観光課長 入館施設は振興公社が管理運営を行っているが、入館

人員はいずれも前年より減少している。ただ見せるだけではなく、体験を取り入れたり特別展を企画しているが、なかなか結果として結びつかなかった。今後も体験や企画展を継続しながら、施設の魅力をアップし、団体利用に結びつける営業にも努めたい。



9月定例会 議場の様子

歳出

問 公共施設等総合管理計画策定業務委託として420万円ほどの支出があるが、今後の公共施設の管理が、町の財政運営にどのような影響を与えることが予想されるか。

答 総務課長 現在、松崎町が所有する公共施設を、将来40年にわたって管理する場合、修繕費などの維持費がどれ位かかるか試算したもの。

町が充当できる財源が84億円に対し、必要な維持管理費は150億円が見込まれる。

問 交流拠点施設利用促進業務委託696万円は、どの業者へ委託し、何を行ったのか。

答 企画観光課長 富士ゼロックスに委託したものであるが、昨年7月の「ふれあいとーふや。」オープンイベント以降、同所において、首都圏か

ら子育て世代を松崎に招いてのワークショップなどを開催したり、移住検討者、移住希望者向けの雑誌に松崎町の情報を掲載したりしている。

問 富士ゼロックスに委託した事業の中には、地方に事業を呼び込むという目的があったと思うが、どれだけの事業展開をしたのか。

答 企画観光課長 「ふれあいとーふや。」はシェアオフィスとして、外部人材にそこで働いてもらうという目的もある。

施設の利用促進の中では、退職を控えている方などに、その方々が持っている知識、スキルを松崎町の課題解決に生かしてもらいたいということ、シェアインターンシップの試行も行ったが、成果としては、そこで仕事ができるまでには至っていない。

問 富士ゼロックスには

お金を出して委託しているわけだから、町民が納得できるものを一つずつでも積み上げていただきたい。

答 町長 皆さんの税金を使ってるので、目に見える形にしなければいけない。人が集まってワイワイガヤガヤと賑わいが出るよう努力していきたい。



交流拠点施設「ふれあいとーふや。」

問 那賀耕地の花畑は、毎年出来が良かったり悪かったりで厳しい評価もある。事業継続は希望するが、早期に種まきをしたり、花の種類を変えるなど検討してみてもどうか。

答 企画観光課長 稲作が終わって、早い時期に種蒔きをすることは重要と考えている。それに合わせ、今年は田んぼの一部をワイルドフラワーカー菜の花に変えてみて出来具合などを検証してみたい。

問 松崎幼稚園を視察したときに梁材から油がしみ出していたが、それは解消したのか。

答 教育委員会事務局長 材料として使用したカラマツの集成材から松脂がしみ出していたが、現在は収まっている。施業者、監理業者とも話をしているが、年度末には再度確認し適切な対応をしていた。

問 幼稚園の建設費が2億6000万円余、坪単価が150万円ほどで大変高額な建築である。実施設設計と施工監理が同じ業者で、発注者が業者まかせにすると、今回のような問題も出る。原資は公金のわけだから、もう少し注意を払うべきではないか。

答 教育委員会事務局長 設計管理の関係については入札で同じ業者が落札したもの。設計についても基準に基づいて設計をしている。

監理の関係は議員ご指摘のとおりしっかり打合せをし、以後、この工事に限らず、そういう部分のチェックは注意して対応していきたい。



問 伊豆縦貫道西伊豆アクセス道路、河津下田道路及びアクセス道路期成同盟会へそれぞれ負担金の支出があるが、伊豆縦貫道から西海岸へのアクセス道路が松崎、西伊豆、土肥地区にとっては悲願である。現在の進捗状況とその見通しは。

答 産業建設課長 現在、天城北区間については、平成30年度オリンピックまでの完成を目指して事業が進められている。

天城峠から河津区間については3ルート案が示され、住民対象にアンケート調査が行われているが、この結果を基に国が検討していく。

問 時間外勤務手当が各支出科目にあるが、社会的に過労死が問題となっている。役場が不夜城化し、いつ通っても電気が点いているが、災害時などに対応できるのか不安に思う。職員の労務管理はどうなっているのか。

答 総務課長 時間外勤務手当はトータルで891万円の支出になる。

時間外勤務については重要な問題と捉えており、夜間の会議で遅くなる場合もあるが、少なくとも午後10時には退庁し、次の日には健康な状態で出勤できるように指導している。

また、毎月第1、第3金曜日をノー残業デーと定め、午後6時までの退庁を呼び掛けている。



伊豆縦貫道アクセス道路（下船原トンネル付近）

平成28年度一般会計決算審議 討論

反対討論

町は昨年1年間運営してきた、実質収支もプラスで財政健全化比率も悪くないが、町が掲げた総合計画の前期評価の中で、多くの町民が納得できていない部分もある。齋藤町長が8年間行政を運営してきたが、計画前期の5力年で人口7千人を割った。10年後に7千人を維持したいという成果が予算の中に反映されていなかったと思う。今までの予算の組み方では活力ある町にはならなかったということ。ただ、福祉、教育、安全に関しては町民の評価は高い。この決算全てが悪いというわけではないが、町の衰退に歯止めが効く予算編成のため、今後の反省材料にしたいので、本決算認定については反対する。

賛成討論

監査委員の慎重な審査のうえ、適正であったとの監査報告があった。しかし、少し心配な兆候があるので意見として述べるが、繰越明許が多いということ、今回は予算流用が大変多い。3月の最終補正から5月末の出納閉鎖までは期間があるので、流用ということは仕方ない部分もあると思うが、これは消化した予算が余ったから流用して使っているのではとの見方も住民の中には出てくる。余った予算は不用額として補正予算で減額するなど、きちっとした決算をすべきではと思っている。

行政の継続性のポイントは職員の皆さんが持っているもので、よほどしつかりやっていただかないと、厳しい町がどんどん疲弊していく。お金を扱う責任というものを重々に感じていただきたいという要望を添えて本案に賛成する。

国民健康保険 特別会計

歳入総額12億9331万2千円、歳出総額12億3293万4千円で6037万8千円の黒字決算となった。

問 平成30年度から国民健康保険が県の管轄となるが、これに対する町の考え方は。

答 健康福祉課長 来年度から県と町の共同化となり、責任の主体は県が担う。一番気になっっているのが県が措置すべき納付金の額だが、この情報が来ていない。早期に情報を得て、円滑に共同化へ移行できるように鋭意努力したい。

問 町長は健康長寿の町を実現するため、健康診断の受診率を上げて健康維持を図りたいといっているが、まだまだ目標には達していないのではな

いか。

答 健康福祉課長 特定健診の受診率は37・8%で県の平均くらいではあるが、受診しなかった人に対しては郵便や電話で受診の呼びかけを考えている。

来年度から始まる共同化事業では、保険者が健康保持のために努力する取り組みに対し、お金が交付される制度があるので、その辺にも力をいれたい。

問 国民健康保険はなくてはならない社会保障制度である。松崎町も人口が減少し色々大変ではあるが、保険料の負担軽減措置はしっかり行っている。ただし、保険料の収入未済額を減らす努力をすべき。

答 健康福祉課長 国民健康保険は加入者から保険料をいただいている。運営となる。やむを得ない場合は軽減措置ということになるが、不公平のない

よう保険料の滞納に対してはしっかり取り組んでいく。



特定健診の様子（環境改善センター）

介護保険

特別会計

歳入総額8億5148万8千円、歳出総額8億5001万5千円で、147万3千円の黒字決算となった。

問 介護保険制度は国の方針で要支援1・2を保障から外して、地方自治体のサービスに移行する

るような流れである。

地域密着型通所介護というのは平成27年度にはなく、28年度に実績が挙がってきているが、こういった変更で町の負担はどうなっているのか。

答 健康福祉課長 団塊の世代の方が75歳以上になる2025年問題というのがあり、国もその辺を見越した制度改正を進めているものと思う。

定員18人以下の通所介護施設は地域密着型通所介護として町が事業所指定するもので、新たに西伊豆町内の3事業所を指定した。これまで利用していた通所介護から地域密着型通所介護へ区分移行したものもあるが、通所介護全体では毎年200件余り伸びており、これによる保険給付も2000万円ほど伸びている。

問 要支援1・2の認定を受けた人で認知症を患っている場合は、家庭での介護が困難な場合がある

ような新聞記事があった。このような場合の町としての対応は。

答 健康福祉課長 認知症を患っても本人の意思を尊重し、住み慣れた地域で生活する方向に動いており、認知症の方だけでなく、介護する家族の方の支援も必要となる。

来年度は、医師もメンバーに加わっていただき、認知症初期集中支援チームを地域包括支援センターの中に設置し、早期発見、早期対応に努め、家庭訪問などによるアドバイスなども行っていく。

その他

特別会計

後期高齢者医療特別会計及び岩地・石部・雲見集落排水事業特別会計の決算は、いずれも全員賛成で認定された。



一般会計補正予算

補正予算(第3号)は、歳入歳出にそれぞれ7014万9千円を追加し、補正後の額を35億5884万4千円とした。

問 一般管理費の文書管理システム422万3千円は老朽化に伴う更新とのことだが、システムの内容は。

答 総務課長 現在のシステムは平成17年に導入されたもので、今回、機械・ソフトとも新しくする。

役場で保存されている文書は、種類ごと性質ごとと保存年数ごとに仕分けをして管理し、情報公開請求などのときに、どこにその文書があるか確認できるシステムとなる。

問 健康なまちづくり推進事業委託394万円はどのような内容で、どこに委託するのか。

答 企画観光課長 県が主導した伊豆半島生涯活躍のまちづくり検討会議において、松崎町が行う

健康なまちづくり推進事業がモデル事業に選定されたことから、今回補正予算に計上した。

内容はノルディックウォーキングを主体としたスポーツウォーキング教室の立ち上げ、参加者それぞれに合わせたノルディックウォーキングコースの設定、参加者の参加前後の健康効果の検証などを行うもの。

なお、委託先については運動効果の分析も必要となるので、町外の専門機関を想定している。

問 依田家住宅修復工事340万円の詳細と財源はどうなるのか。

答 企画観光課長 国の登録有形文化財である旧依田邸の漆喰の塀、延長11mが老朽化により傾いていることから、これを修復するもので、県には

毀損届けを提出し工事方法について協議をしてきた。

財源については、文化振興財団の助成金13万円の活用と、その他は一般財源となるが、文化財の修復費用については特別交付税措置の対象となる。

問 旧依田邸は母屋を含め11棟あったと思うが、全体の修繕はどう考えているのか。

答 企画観光課長 全体の修繕費用等については、今行っている道の駅パーク構想基本計画策定の中で修繕箇所、概算事業費等を明らかにしていきたい。



補修が必要な塀 (旧依田邸)

その他の補正予算

◎国民健康保険特別会計

補正予算(第1号)

補正予算(第1号)は、歳入歳出にそれぞれ5383万8千円を追加し、補正後の額を13億3555万5千円とした。

歳入の主なものは平成28年度決算による繰越金5307万1千円の増額や本算定による保険料1070万6千円の減額など。歳出の主なものは、

保険給付費5698万円、基金積立金1300万円、今後の医療費増額に備え予備費に3196万2千円をそれぞれ増額した。

た。

◎介護保険特別会計補正

予算(第1号)

補正予算(第1号)は、平成28年度決算による保険給付費や繰越金が確定したことによる負担金の精算などによるもので、

歳入歳出にそれぞれ387万4千円を追加し、補正後の額を8億8395万3千円とした。

◎温泉事業会計補正予算

(第1号)

補正予算(第1号)は、人事異動による人件費不足額の増額などにより、収益的支出に137万2千円を追加し、補正後の額を5756万円とした。

◎後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

補正予算(第1号)は、

平成28年度決算による繰越金や負担金の精算などによるもので、歳入歳出にそれぞれ95万9千円を追加し、補正後の額を1億1324万4千円とし

◎雲見集落排水事業特別会計補正予算(第1号)

補正予算(第1号)は、

施設老朽化による修繕の必要が生じたことから管理委託料124万円を増額し、補正後の額を2160万円とした。

税条例の一部改正

◎松崎町税条例の一部を改正する条例

都市緑地法等の一部改正により、緑化保全団体等が市民緑地を設置・管理する場合に対し固定資産税の軽減規定を設けるもので、最初の3年間に限り、土地の課税標準額を3分の2とするもの。

意見書を採択

◎道路整備に係る補助率等の高上げ措置の継続を求める意見書

道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律により、地方公共団体に対する道路整備費用の国の負担、補助率が高上げされているが、この特例措置が平成29年度で期限切れとなることから、引き続き法律の継続を求めるもの。
全会一致で可決し、国の関係機関へ送付した。

第3回定例会賛否状況一覧

件名	議員					
	伴高志	渡辺文彦	長嶋精一	藤井要	福本栄一郎	佐藤作行 稲葉昭宏
専決処分承認を求めることについて (平成29年度松崎町一般会計補正予算(第2号))	○	○	○	○	○	○
松崎町税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町一般会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町介護保険特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町温泉事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○
平成29年度松崎町雲見集落排水事業特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○
平成28年度松崎町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	×	○	○	○	○
平成28年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○
平成28年度松崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○
平成28年度松崎町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○
平成28年度松崎町岩地集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○
平成28年度松崎町石部集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○
平成28年度松崎町雲見集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○

町政を問う

問

施設の供用は大丈夫か

答

地元住民の理解に努める



藤井 要 議員

問 ゴミ処理事業の広域化については、1市2町の首長で合意し、平成36年度に南伊豆町での供用を目指すとのことだが、その後、南伊豆町長が代わった。地元説明会も行われているようだが、どのような状況であるのか。

答 (町長)

南伊豆町の岡部新町長は6月定例会で、「広域化には賛成、住民の理解が得られるように努力する」と述べている。

耕作放棄地が増えている。町独自の戦略をもって進めなければ増加する一方と考えるが、今後の町の取り組みは。

答 (町長)

平成25年度から空き家情報バンク制度を始め、現在5件の物件情報と24名の利用者登録がある。耕作放棄地については28年度末で84haであったが、現在実施中の現地調査の結果、今後も増加する可能性がある。

利活用できる空き家については、新規就農者の住宅としても活用できるので、農地付き空き家情報として整理し、耕作放棄地の解消につながればと考えている。

問

町独自の戦略が必要

答

農地と空家をセットで

問

少子高齢化による人口減少とともに空き家、

問 土砂災害危険区域は

答 詳細な調査のうえ指定

問 九州北部などの大雨土砂災害を見て、当町でも早急な対策が必要と考えるが、危険区域の把握

と管理体制は整備されているのか。

答 (町長)

町内には土砂災害のおそれのある危険箇所が252箇所指定されているが、詳細な調査を実施したうえで、静岡県が特別警戒区域等の指定を行っている。

現在10箇所が正式に指定されており、対応として県がハード整備、町がソフト対策を行い、住民への危険箇所の周知徹底と警戒避難体制を確立し、安心安全な町づくりを行っていく。

問

斎場建設の方向性は

答

両町で基本構想策定

問 西伊豆斎場建設について、西伊豆町長も代わり新たな進展はあったか。

答 (町長)

合併特例債を利用し、西伊豆に建設との計画を白紙に戻して両町で協議することとした。

下田市にある斎場組合に加わるといふ考えもあったが、大災害時を考えると西側にも必要であると確認したところであり、両町で基本構想の策定に取りかかることにした。



西伊豆斎場 (西伊豆町)



ごみ処理場の今後は（クリーンピア松崎）



伴 高志 議員

問 ごみ処理場の共同化は

答 1市2町で検討中

問 1市3町での共同化から西伊豆町が離脱したが、松崎町も西伊豆町と同一歩調をとらないのはなぜか。

答（町長）

近隣市町においてもごみ焼却施設の老朽化が進み、維持管理費や改修費が増加し、財政的にも大きな負担となることが懸念されている。広域化のメリットは建設費、運転費及び施設維持管理費の軽減、長時間運転によるダイオキシンの発生抑制、余熱の有効活用などが挙げられる。

今後の施設整備運営にかかる財政負担等を考えると、なるべく大きな枠組みの中で、広域的な検討をしていくことが最善の策であるとの見知から1市2町での広域化に向け検討している。

問 経費の面を考えると、

今の施設を松崎町単独で継続できるのではないか。

答（町長）

雲見区との契約で今の

施設は平成36年3月末までしか使用できないので、松崎町の方針として広域化を進めている。

問 地元要望なのか

答 財政誘導ではない

問 1市2町の変則共同化は地元要望よりも国の財政誘導ではないか。

答（町長）

今回の広域化については、平成26年に立ち上げられた勉強会の中で具現化が図られたもので国の財政誘導によるものではない。

なお、施設整備においては国の交付金を受けることになるが、それに伴い今年度において構成市町のごみ処理の現状把握と目標値の設定、処理施設の整備等に関する計画を策定中である。

問 最終処分場は

答 各々県外で処理

問 1市2町共同化の計画では最終処分場は各市町で設置する方式だが、うが、そうならば市町ごとで焼却施設を建設することと大差ないのでないか。

答（町長）

現在、1市2町では地元で確保している最終処分場が満杯のため、各々県外に最終処分場を確保している。

松崎町では混合灰については三重県伊賀市へ、焼却灰については埼玉県寄居町に運搬処理している。下田市、南伊豆町においては群馬県草津市に処分場を確保している。

今後においても地元でこれを確保することは困難なことから、現時点では広域化が図られた後も現行の最終処分場を継承していくことで方向性が定められている。

問

空き家対策条例の制定は

答

調査結果を踏まえ検討



渡辺 文彦 議員

問 平成26年11月に、空き家対策の推進に関する特別措置法が制定され、法律では、地域住民の生命、身体、財産の保護、生活環境の保全及び空き家の利活用を求めている。当町においても空き家は増加傾向にあるが、この問題に対して条例を定める考えはあるか。

答 (町長)

平成26年、町内11地区の調査で170軒の空き家を確認した。今年度は

は、この「特定空き家等」についていかに対処するのか。

答 (町長)

所有者の責務として、適切な管理が求められているが、町の責務としては、防災、景観、衛生等において適切な管理が行われていない場合は、所有者への指導、助言を行うことになる。

問 「美しい村」の成果は

答 町民が誇りを持って

区長、防災委員を通じさらに実態調査を実施し、現状の把握に努める。今後、空き家の増加が予想されるため、特定空き家等の対応も含め、各課連携して対策計画を策定していく必要がある。併せて条例制定の必要性についても検討していく。

問 「空家特措法」では

「特定空き家等」について規定し、所有者、市町の責務を定めている。町

答 (町長)

これからの町づくりは町民が自らの地域に誇りを持ち、地域資源を保全・活用することが大切と思うが、そうした意識を持つ町民が増えてきていると思う。

しかし、加入目的の一つである地域経済の自立という点では、なかなかまだ見えてこない。

問 組合解散の影響は

答 各種団体との連携で

問 平成29年度をもって、飲食店組合が解散となるが、当組合は、町の活性化に一役果たしてきたと考える時、解散となれば

町の一層の衰退が危惧される。町長はこの現状をどう考えるか。

答 (町長)

飲食店組合は65年の長きに渡り、町の飲食業の発展に多大なる尽力をいただいた。組合は、解散となるが、会員の多くは商工会、観光協会に加盟されていることから、両団体とも連携して、引き続き町の産業振興を図っていきたい。



「日本で最も美しい村」に加入して



新浜通りの足湯

問

耕作放棄や鳥獣害対策は

答

農地再生対策の推進化

福本 栄一郎 議員

問 田畑の耕作放棄地を放置することは、鳥獣害の原因をさらに助長し、周囲の農地に悪影響を及ぼし耕作意欲の低下につながっている。

当町の耕作放棄者に対する指導や勧告、鳥獣害対策はどのように考えてう対応しているのか。

答 (町長)

耕作放棄地の所有者に対しては、期限を定めて雑草の除去など必要な措置を講じるよう電話や文書で連絡している。また、鳥獣被害対策としては鳥獣害対策補助金で電気柵などの設置補助と併せ、猟友会にお願いで駆除してもらっているが被害の減少には至っていないのが実情である。

議員ご指摘のとおり、鳥獣被害は農業者の耕作意欲の低下につながるもので、さらに緊密に猟友会と連携していきたい。

なお、中間管理機構による新規就農者とのマッチングや基盤整備事業に

よる農地の集約化や効率的な農業の推進を図るとともに、耕作放棄地緊急対策事業補助金などによる農地再生対策により耕作放棄地の解消に努めた

問 俳句交流館や足湯は

答 街の賑わいを創出

問 商店街には、商工会の「俳句交流館」や足湯が整備されているが、商店街への誘客効果や反応はどうか。また、新浜通りにできた足湯施設の維持管理は。

答 (町長)

俳句交流館では健康マールシェの開催や街中ギャラリーとして町内工芸品作家の展示販売などが行われ、街なかの賑わい創出に寄与している。また、昨年度に整備した足湯は、観光客の休憩場所や地域住民の憩いの場として誘客の効果を上げている。なお、施設は町で管理

しているが、日常の清掃美化については、周辺の地域住民の協力を得て実施している。

問 中川地区の展望は

答 新たな町の玄関口

問 「旧依田邸」と道の駅「花の三聖苑」などの利活用を考える道の駅パーク構想基本計画策定委員会が設置されたが、中川地区の将来展望は。

答 (町長)

この構想は、伊豆縦貫自動車道の完成を見越し新たな松崎町への玄関口となる花の三聖苑周辺一帯を観光・文化交流拠点施設として整備するものである。地域の活性化と防災・減災を両立させ、中川地区はもとより町全体の活性化に寄与する拠点施設として整備していきたい。

議会のうごき

7月

- 6日 伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会 要望活動（名古屋市）
- 7日 広報編集委員会
- 13日 議会だより116号発行
- 14日 伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会 要望活動（東京都）
- 25日 賀茂郡町議会議長会議（南伊豆町）
- 28日 伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会 合同促進大会（東京都）
- 31日 議会全員協議会

8月

- 17日 静岡県市町議会議員研修会（静岡市）
- 25日 下田地区消防組合議会定例会
下田メディカルセンター組合議会定例会
- 29日 議会運営委員会・広報編集委員会

9月

- 1日 議員会勉強会
- 5～7日 第3回定例会
- 11日 静岡県町村議会議長会総会・議長会議（静岡市）
- 26日 西豆衛生プラント組合議会臨時会

表紙の写真「石部棚田 収穫祭」は文化協会写真部より提供。



この人に聞きました⑭
松崎高校
男子バスケットボール部

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、松崎高校男子バスケットボール部の皆さんにお話を伺いました。

部活動の実績はありますか。

私たち、男子バスケット部は部員12人、マネージャー3人の計15人で活動しています。まだ公式試合も少ないので実績はありませんが、日々優勝に向けて、練習しています。

町をより良くするために、やってもらいたいことはありますか。

昔、牛原山の遊具は楽しかった思い出がある。今は、遊具が少なくなっている。牛原山を整備して遊具を増やせば、遊ぶ人も増えて観光につながると思う。

公共交通手段がバスしかない、他所に出かけづらい。電車などバス以外の交通手段が欲しい。

高校生から見た町に足りないと思うものは何かありますか。

コンビニ以外に立寄れる場所（遊ぶ場所・観光スポット）が少ない。イベントごとが少ないように感じる。高校生が通る通学路にポスター等の掲示がたくさんあれば、参加する機会も増えると思う。

（聞き手 編集委員長）

【議員辞職】

長嶋精一（9月29日付）

発行責任者

議長 土屋清武

編集委員長

藤井 要

編集委員

伴 高志 渡辺文彦

福本栄一郎 佐藤作行

稲葉昭宏

海鳴り

今定例会には、平成28年度決算認定議案が上程され、一般会計、特別会計合わせ7会計を原案のとおり認定したが、一般会計の決算審議では、よく他の自治体の「ふるさと納税」の納付額が議論となる。

当町でも27年度に「ふるさと納税」プロジェクトチームを組織し、納入方法の改善や返礼品の拡大などの検討を重ねたことから、前年を4百万円余り上回る2千7百万円余りの納付がなされた。しかし、隣の西伊豆町では11億2千5百万円、南伊豆町でも3億9千万円を超える納税があったと聞く。

国では「ふるさと納税」にかかる返礼品について見直しを指導しているようだが、他町との納付金額の大差は返礼品だけではなく、松崎町の知名度も影響しているのではないだろうか。議会としても考えてみる必要がある。

（議長）